



湯尾小学校田植え

おいしいお米に育ちますように

5月23日、湯尾小学校の学習田で5・6年生の児童が田植えを行いました。
まずは、木杵を転がし目印を付ける作業。素足で田んぼに入った児童らは、「ぬるぬるして歩きにくい!!」「おたまじゃくしがいっぱい!」などと興奮気味。その後、小さな苗を一本一本丁寧に植えていきました。収穫までの間、総合学習の一環として、稲の観察など様々な学習活動を行っていく予定です。たわに実った稲を収穫し、自分たちで作ったお米を食べるのが楽しみです!



**アカタン砂防えん堤群保全活動
まちの誇る歴史遺産を美しく**

5月29日、古木地係と瀬戸地係にある国の登録有形文化財「アカタン砂防堰堤群」と「西高倉堰堤」で、田倉川と暮らしの会や高倉谷川堰堤の会の会員ら約40人が参加し、保全活動が行われました。雨の降りしきる中、草むしりや散策路を歩きやすくするための木のチップ撒きなどの作業を行った参加者らは「貴重な歴史遺産を美しく守り、後世に遺していきたい」と話していました。

★チェック★
今年4月に県が選定した『福井ふるさと百景』にも選ばれています。一度、ご覧ください。
<http://info.pref.fukui.jp/hyakkei/>



**南条郡小中学校連合音楽会
うたはともだち**

6月9日、南条文化会館で、第54回南条郡小中学校連合音楽会が開かれ、日ごろの練習の成果を披露しました。

開会式では大塚教育長が「歌うときも聴くときもこころをひとつ」と挨拶。小学校の部から元気な合唱がスタート。指揮に合わせて大きな口を開け、笑顔で歌う姿に観客席からは大きな拍手が起きました。また、中学校の部では、力強い男子の歌声と、澄んだ女子の声のハーモニーで会場を包み込みました。今庄中・南条中学校吹奏楽部による息の合った演奏が披露されたあとは、会場全員でふるさとを大合唱。こころをひとつに歌い上げました。



高齢者保養事業

思い思ふの楽つごうユキキ

5月30日から7月5日にかけて、各地区で65歳以上の方を対象に、町内の温泉施設を利用して高齢者保養事業が行われています。
これは、日ごろの疲れを癒して、楽しいひとときを過ごしてもらおうと毎年行われているもので、6月14日は、河野シーサイド温泉ゆうばえに桜橋地区の60人が参加。認知症予防に効果のある手先を動かす運動を体験した後は、お楽しみ会の昼食会。参加者らはおいしいお弁当を食べながら、気の合う仲間と昔話に華を咲かせました。また、カラオケをしたり、温泉に入ったりと、楽しい時間を過ごしました。



**河野中学校ふるさと学習
郷土の先輩から学ぶ**

6月7日、河野中学校で町民を講師に招くふるさと学習が行われました。
ふるさと学習は郷土の歴史や文化、特色などを学ぶ年2回の全学年合同授業。今回はテーマを東日本大震災とし、南越消防組合消防署員で同校出身の橋爪由貴哉さん(赤萩)が被災地で行った捜索活動などについて講演。橋爪さんは「災害は人ごとではなく、いつ私たちの身に起こるかわからない。日ごろから避難経路の確認や非常用持ち出し袋の用意など、防災意識を高めてください」と呼びかけた。生徒らは、被災地での生の声に真剣に聴き入り、今まで以上に防災意識を高めました。



**県消防操法大会出場結団式
火点は前方の標的!**

6月7日、来月23日に行われる第60回福井県消防操法大会に、南越前町代表としてポンプ車操法の部に出場する選手の結団式が行われました。

出場選手は、南越前消防団第9分団の団員で構成。副管理者代理の宮地副町長から「一挙手一投足に気を配り優秀な成績を収めてください」と激励。選手を代表して、川端公雄さん(桜園地)が「一致団結し、消防技術の習得に努め、南越前消防団の名を高めるため、訓練に励みます」と誓いの言葉を述べました。選手らは大会までの約1カ月間、夜間2時間の訓練を積んで大会に臨みます。



**第15回河野つめまつり
今年は豊作、最高の河野つめ**

第15回河野つめまつりが、6月18日、19日の両日、河野シーサイドパーク駐車場で開かれ、約2,000人が訪れました。

今年は冬が長かったこともあり、生育は例年より一週間ほど遅れているとのことでしたが、作柄は豊作で粒も大きく、良質な梅に育ったようです。会場では収穫したばかりの「紅サシ」が販売され、安く買い求める人たちが賑わいました。特産品として梅干し、梅ジュース、梅ジャムに梅の八チミツ漬けなどの加工品が販売されたほか、サザエの壺焼きなど新鮮な海の幸も人気を集めていました。

また会場では、梅にちなんだゲームにたくさんの方が挑戦。「つめぼしのたね飛ばし長距離主決定戦」では、老若男女が次々に挑むものの、種をうまく飛ばすことが出来ず、会場は爆笑に包まれました。青つめを隣のごに移す「青つめ早つまみ競争」では、子どもたちが慣れない塗り箸を使い、4cmほどの実をはさもうと真剣な眼差しで挑んでいました。



まつりの目玉である恒例の「梅もぎ体験」には156人が参加。梅園は会場近くの山の傾斜地。足元が悪い箇所もあり、滑ったり転んだり。それでも参加者らは「今回で六度目の体験。昨年より成りが良く、粒が大きい」毎年来てますが、今年は本当にたくさんの実がついていますね「おばあちゃんに梅ジュースにしてもらう」などと話し、苦労はそっこのだけで収穫を楽しんでいました。